

第3期 NBRP・コムギ 第4回 運営委員会 議事録

日時：平成26年3月19日（水）12時30分～15時40分

場所：京都大学東京オフィス 会議室1

出席者：

（1）運営委員

辻本 壽、小田 俊介、加藤 鎌司、佐藤 和広、宅見 薫雄、寺地 徹、土門 英司、中村 俊樹、半田 裕一、藤田 雅也、松岡 由浩

（2）実施担当者

那須田 周平、河原 太八、遠藤 隆、荻原 保成、川浦香奈子、坂 智広、一色 正之

（3）NBRP 事務局

佐藤 清

（4）コムギ小委員会委員

西田 英隆、田中 裕之、新田 みゆき、竹中 祥太郎、森 直樹

（5）オブザーバー

佐久間 俊

議長：辻本

書記：新田

確認事項

（1）第3期 NBRP・コムギ 第3回 運営委員会議事録確認（第3期 第4回（以降省略）資料1）

（2）第3期 NBRP・コムギ組織 確認、出席予定者 確認（資料2）

- 運営委員の藤田雅也の所属が「(独) 農研機構・作物研究所」に変更
- 運営委員の加藤鎌司、コムギ小委員会の西田英隆の所属を「岡山大学大学院環境生命科学 研究科」に変更
- 実施担当者の遠藤隆が今年度で退職
- 実施担当者に新たに「佐久間 俊（サクマ シュン）横浜市立大学木原生物学研究所」を追加
- WG【一元化管理】 名称を「種子一元化管理」に変更、構成メンバーを実際に動いている人とし、「笹沼」「辻本」「坂」を削除、「那須田」は課題全体の管理を行うためこのメンバーから退任
- WG【データベース】 新田、竹中をメンバーリストにも加える、「那須田」は課題全体の管理を行うためこのメンバーから退任
- WG【eWIS】 編集長が石川から川浦に、副編集長が川浦から西田に変更、那須田をメンバーから退任させるかは eWIS 内で検討

- **WG【DNA マーカー】** 目的が曖昧（佐藤（和））⇒第2期ではマーカーを系統に付加する役割を果たし、第3期ではコアコレクションにマーカーを付加するチェック機能として位置付けている。メンバーを中心に改称と職務内容検討のたたき台を作り、次回の運営委員会で報告（那須田）
- **WG【京都大学センター化】** 京大内部の話になるのでこの組織は削除

(3) 報告事項

1. 平成25年度後期事業報告

種子リソース 総括・河原（資料3）（木原担当分の補足・一色（資料4））

- 訂正（資料3）3② 誤「*Ae. tauschyi*」→正「*Ae. tauschii*」
- 訂正（資料3）4 誤「(2012/2013)」→正「(2013/2014)」
- 訂正（資料4） 誤「平成25年度前半事業実績報告」→正「平成25年度後半事業実績報告」
- （資料3）4① 「京大・遺伝で4倍体種を約370系統更新予定」を追加
- （資料3）4② 導入の *T. urartu* は今後配布されるのか（宅見）⇒同定と自殖を経て翌々シーズンには配布できる予定（河原）
- 寄託システムを整備してほしい（宅見）⇒寄託者が知財を放棄するなら可能（那須田）

種子リソース配布 那須田（資料5）

- 配布実績は目標を達成する見込み
- 消費税率の変更に伴い、種子系統の配布料を改定予定⇒生物研ジーンバンクでは消費税率変更後は配布量を減じることで配布価格を10分の1程度に下げる（土門）
- 種子配布を受ける際、後払いができるようにならないか（寺地）⇒議論を持ち帰り経理に掛け合う（那須田）
- 配布代行業務ができると海外のユーザーが利用しやすい（遠藤）

DNA リソース 川浦（資料6）

DNA マーカー 那須田（資料7）

- 2. (3) 広報活動に「NBRP・コムギ DNA マーカー作業部会会議（12/7、神戸）」を追加。

6倍体コアコレクションの F₁、F₂の用途について（寺地）⇒有望な組み合わせをいち早く RIL化するためであった（松岡） 関心対象の形質で交配の両親間で多型が見つかったときにすぐにアソシエーション解析に移行できるため（那須田）⇒NBRPの事業として純系の価値を高めるために行うならユーザーに還元してNBRPの成果となるように進めるべきで個人の研究と区別すべき（辻本）⇒6倍体コアコレクションの論文発表後でないと全面的には配布しないという制限は事業で行う以上は設けるべきでない（加藤）⇒個別の組合せでは配布している。作成に労力

がかかるので全て系統のリリースは保留中。事業でどこまで行うかは今後、再検討する(那須田)

- 二倍体 AA コアコレクション作成にドイツのマックス・プランク研究所のコレクションも加えてはどうか(松岡) ⇒同定する必要があるので、第3期内にコアを完成させるためには追加は困難で、目標は物集女のコレクションのコア化なので達成はできている。(那須田)
- 学名の採用について(宅見) ⇒遺伝資源の取り扱いと論文での学名の採用基準は異なるので論文の場合には査読者側に合わせればよい(辻本、河原)
- USDA からの導入種子は分類に間違いがあるのか(辻本) ⇒経験では5%程度が分類の間違い、5%程度がミックス(河原)

DNA リソース配布 川浦(資料5)

2. 一元化ワーキンググループ報告 松岡(資料8)

- 在庫管理データベースの納品と試用は2014年3月17日に実施した。1系統の処理に3人で7,8分、1万系統で1000時間を要し、日数で200日。
- 最新世代を配布用として分取して京大農学部保管し、歴代の種子はストックとして物集女に保管する。
- バックアップ作業も同時に行うのか(辻本) ⇒まずは配布用を分取するところから(松岡)
- システム開発に270万円かかった。NBRPの推進委員の先生方とライフサイエンス課の方々の配慮により追加予算を付けていただいた(那須田)
- オオムギでは、採種量を50mlの容器3本分に限り、そのうち1本を配布用、残りの2本をストックとし、容器の外側から目盛を目視で読んで基準量より減ったらエクセルに入力し、ストックの容器を配布用に回すシステム。(佐藤)

3. KOMUGI データベースワーキング報告 笹沼の代理で松岡(資料9)

- HPを2014年4月から更新予定

4. eWIS 報告 石川の代理で川浦

- 1年間で116号と117号を発行した。
- 116号は2013.10.4に発行、contentsはResearch Informationとして1報、Research Opinion & Topicsとして6報(うち4報はNBRP)、Meeting Reportsとして1報。
- 117号は2014.3.17に発行、contentsはResearch Informationとして2報、Research Opinion & Topicsとして1報、Meeting Reportsとして1報。
- 4月から編集長に川浦、副編集長に西田が就任。

5. 学会等での活動 那須田 (資料7、2. (3))

6. その他

渉外

国際農業研究所の情報

・ CYMMIT (International Maize and Wheat Improvement Center、国際トウモロコシ・コムギ改良センター) (担当：坂の代理で辻本)

Norman Borlaug 博士生誕 100 周年記念行事として、メキシコ、オブレゴンで BGRI (Borlaug Global Rust Initiative、世界さび病イニシアティブ)が 3 月 22 日から 25 日に、引き継いで Borlaug Summit が 25 日から 28 日に開催される

・ ICARDA (International Center for Agricultural Research in Dry Areas、国際乾燥地農業研究センター) 担当：辻本

シリアのアレッポから避難してレバノン、ヨルダン、モロッコ、チュニジア、エジプト等で活動が始まっていて、ジーンバンクを含め、作物学関係はモロッコのラバットに統合集中する方向で活動が再開

・ WI (Wheat Initiative) 担当：半田

第 12 回国際コムギ遺伝学シンポジウム (IWGS) の翌日に研究者委員会 (Research committee、RC) が開催され、向こう 2、3 年の間に力を入れるべき戦略的研究課題 (Strategic research agenda, SRA) が議題になっている。RC には今後は半田に加えて小田も参加。RC の上位委員会である機関調整委員会 (ICC) には岩永が参加。RC の下に設置されている Expert working group (EWG)としてクオリティとフードセキュリティのテーマを立ち上げる準備に池田が参加。

・ IWGSC (International Wheat Genome Sequencing Consortium) 担当：半田

6B サーベイシークエンスの論文は Science で審査中。BLAST 検索はメンバー登録無しでできるようになる。アッセムブリのデータを全てダウンロードできるようになった。3B シークエンスも同時に Science で審査中。こちらもデータへのオープンアクセスが進んでいる。解読の全体像としては順調に進んでいる染色体が半分ぐらい。止まっているものを進める議論をしているが解決していない。バイエルクロップサイエンス社が全ての染色体について物理地図を作る資金を拠出することになった。

・ スヴァールバル・グローバル・シード・ボルト (スヴァールバル世界種子貯蔵庫、ノルウェイ) 報告：佐藤 (和)

H26 年 2 月 25 日に佐藤 (和)、辻本、田中で視察。特注の梱包資材と配送料は自己負担。貯蔵費用は施設側の負担。預けておけば安心では。

その他

・NBRP 運営委員長会議があり、辻本、那須田が参加。大きな議題として、名古屋議定書と平成 26 年度 NBRP 事業について。

・名古屋議定書、ABS (access and benefit-sharing、遺伝資源のアクセスと利益配分) の詳細担当：土門

環境省の主催で名古屋議定書に関わる国内措置のあり方検討会が 16 回あり、パブリックコメントとともに報告書がまとめられた。各省内の議論がこれから始められる。文科省では国立遺伝学研究所が ABS 学術対策チームを立ち上げ、メーリングリストを作っている。ウェブサイト

「idenshigen.jp」に詳細がある。環境省は 2015 年に名古屋議定書に批准する用意があるようである。農作物に関しては先に ITPGR (International Treaty on Plant Genetic Resources for Food and Agriculture、食料農業植物遺伝資源国際条約)に締約しているので ITPGR の SMTA (standard material transfer agreement、標準材料移転契約) で取引される品目については名古屋議定書の項目から外してもいいのではないかとの議論がある。EU で ABS に関する対応のドラフトが議会を通り、ITPGR に関わるものは別枠で考慮しているので、日本も EU を参考にすると分かりやすい。⇒NBRP としては手数料のみを徴収しており、NBRP の植物で一律の対応をする予定であるので、今後無料になることはない(那須田) ⇒NBRP コムギの配布で現在取り交わしている MTA (material transfer agreement、材料移転契約) は今後どうなるのか、SMTA (standard material transfer agreement、標準材料移転契約) にならないのか、物集女の古い系統は何が適用されるのか(加藤) ⇒ITPGR は 2001 年より前には遡及しない。CDB (生物多様性条約) は 1993 年。(土門) ⇒資源のやり取りをする際に同意書を取ることなので現行の MTA で支障がなければ現行の継続(那須田)

ジーンバンクとして SMTA で配布するものの基準は(佐藤(和))⇒ジーンバンクとしては SMTA で配布する判断はしていない。ジーンバンクでは SMTA で配布し得るリストを作成し、農水省では政策上海外に流出すると困るものをそのリストから除く作業をする。SMTA で配布するのは第一弾では全体で 18000 点ぐらい。(土門) ⇒NBRP では現状を踏襲(佐藤(清))

IPK は今後実費として配布に課金を開始する。ノルジェンは仕組みとして課金できない(佐藤(和))

名古屋議定書は 50 カ国が批准して 90 日後に発効する。現在 29 カ国が批准。2015 年に発効する見込み。

(4) 審議事項

1. 平成 26 年度以降の業務分担について(種子系統、DNA リソース) 荻原、河原、那須田
 - 横浜市大での種子の事業の継続についての審議について人事が決定したのを踏まえて再開
 - 京大・遺伝は遠藤と、藤田が退職。竹中、新田が継続(那須田)
 - 京大・物集女は 2 年後河原が退職、技術職員の太田がいるので継続できる(河原)

